

自社開発の木製サッシが 防火設備認定を取得

ウッドフレンズ

ウッドフレンズ(名古屋市、林知秀社長)は5月31日、自社開発した木製サッシ「ウインドウウッド」が3月に国土交通大臣認定



ウインドウウッド

を進めており、集成材、外壁材、建具などの生産やプレカット加工を内製化。ウインドウウッドの前には、国産材活用の促進や住宅外観の差別化を目的に国

(防火設備認定)を取得したと発表した。2021年11月から自社戸建て分譲住宅に採用しており、今後は防火地域や準防火地域に建てる住宅でウォールウッドの使用を増やす。24年5月期には、自社戸建て分譲住宅向けで600戸分の生産を予定している。

同社グループは、「木質資源カスケード事業」という概念の下で設備投資や商品開発

ウインドウウッドの樹種はRウッドで、気密性は気密等級で最高の「A-4」を取得している。今後は、国産材化を検討していく。